

各 位

会社名 ダイヤ通商株式会社
 代表者名 代表取締役社長 阿部 匡
 (JASDAQ・コード:7462)
 問合せ先 管理部管理課 樋泉 裕一
 電話 03-5977-1567

平成27年3月期第2四半期累計期間の業績予想と実績値との差異、
 通期業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

この度、当社において本日開示いたします「平成27年3月期 第2四半期決算短信(非連結)」の実績値と平成26年5月14日に公表しました業績予想について差異が発生しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、今後の業績動向等を踏まえ、平成27年3月期通期業績予想の修正を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

尚、特別損失の発生もありましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値の差異について

第2四半期(累計)(平成26年4月1日~平成26年9月30日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	2,475	14	11	11	1.45
今回発表値(B)	2,300	△6	△7	△26	△3.51
増減額(B-A)	△175	△20	△18	△37	
増減率(%)	△7.1	—	—	—	
前期実績(平成26年3月期第2四半期)	2,997	△71	△78	△42	△18.14

2. 通期業績予想の修正について

(平成26年4月1日~平成27年3月31日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,991	36	29	29	3.81
今回発表値(B)	4,460	5	39	△6	△0.84
増減額(B-A)	△531	△31	10	△35	
増減率(%)	△10.6	—	—	—	
前期実績(平成26年3月期)	5,535	△209	△228	△388	△51.04

3. 特別損失の発生及び内容

石油業厚生年金基金の解散による損失の見積額16百万円を新たに厚生年金基金解散損失引当金繰入額として計上いたしました。

4. 業績予想の差異および修正の理由

当社の主力事業である石油事業におきましては、売上高は需要家のコスト意識や消費税の増税等により、節約志向の顕在化により減少しました。また、石油製品マージンの悪化により利益も減少し厳しい状況でありました。

専門店事業におきましては、ニューモデルの積極的な販売や新規サービスの導入等、顧客指向の営業を展開した結果、売上高や利益ともに前年を大きく上回りました。

不動産事業におきましては、自社ビルのテナントが当年4月より満室でのスタートとなった為、売上高や利益ともに順調に推移しております。

この結果、会社全体としては石油事業の不振が大きかった為、営業損失6百万円となりました。これに、営業外収益と営業外費用を加減し7百万円の経常損失となりました。

四半期純損失においては、上記に加えて3. に記載の特別損失の計上により26百万円となりました。

これらを要因に、第2四半期の業績予想と実績値の差異をお知らせいたします。

今後の見通しにつきましては、石油事業における適正マージンの確保や油外粗利の増強を目指し、専門店事業につきましても引き続き顧客ニーズに合った販売戦略を継続してまいります。

これらの要因を踏まえ、助成金収入に伴う営業外収益の計上や人員の減少等も加味しまして、通期の業績予想の修正をいたします。

尚、仙台のサービス・ステーションの事業譲渡による業績への影響につきましては、現在、精査中であります。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づいて当社で判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想値と異なる場合があります。

以 上